

[http://www](http://www.ckkc.kochi-u.ac.jp/)

国際・地域連携センター ニュースレター 〈第33号〉

〒780-8073 高知県高知市朝倉本町2丁目17-47

TEL:088-844-8555 FAX:088-844-8556

<http://www.ckkc.kochi-u.ac.jp/>

編集責任者:吉用武史

はじめに

地(知)の拠点整備事業 全国ネットワークシンポジウム開催

平成25年度文部科学省「地(知)の拠点整備事業」に本学が採択された「高知大学インサイド・コミュニティ・システム(KICS)化事業」において、採択機関および申請検討機関とのネットワーク化を目的とした全国シンポジウムを開催します。

日時:平成26年3月11日(火)13:00~17:00

場所:イイノホール&カンファレンスセンター

(東京都千代田区内幸町2-1-1 飯野ビル)

基調講演:NPO 法人 ETIC 宮城治男代表理事

『地(知)の拠点整備事業』が拓く、地域と

大学の新しい可能性—人材育成を中心に

分野別パネルディスカッション

【教育分科会】【研究分科会】【社会貢献分科会】

当センターホームページにてシンポジウムチラシの掲載、参加申込受付をしております。ご興味ございましたら以下アドレスをご参照いただきますようお願いいたします。

参加申込受付フォーム

<https://www.kochi-coc.jp/form/>

チラシ

<http://www.ckkc.kochi-u.ac.jp/doc/20140204.pdf>

分野別パネルディスカッション詳細

<http://www.ckkc.kochi-u.ac.jp/doc/discussion.pdf>

目次

p1 はじめに

p2 地域連携・再生部門

Topic1. 高知県内向け KICS キックオフシンポジウム

Topic2. 土佐 FBC 人材創出 外部評価委員会開催

p3 産学官連携部門

Topic1. 未来に繋がる新たな技術

~テクニカルショウヨコハマ 2014

(第35回工業技術見本市)~

p4 知的財産部門

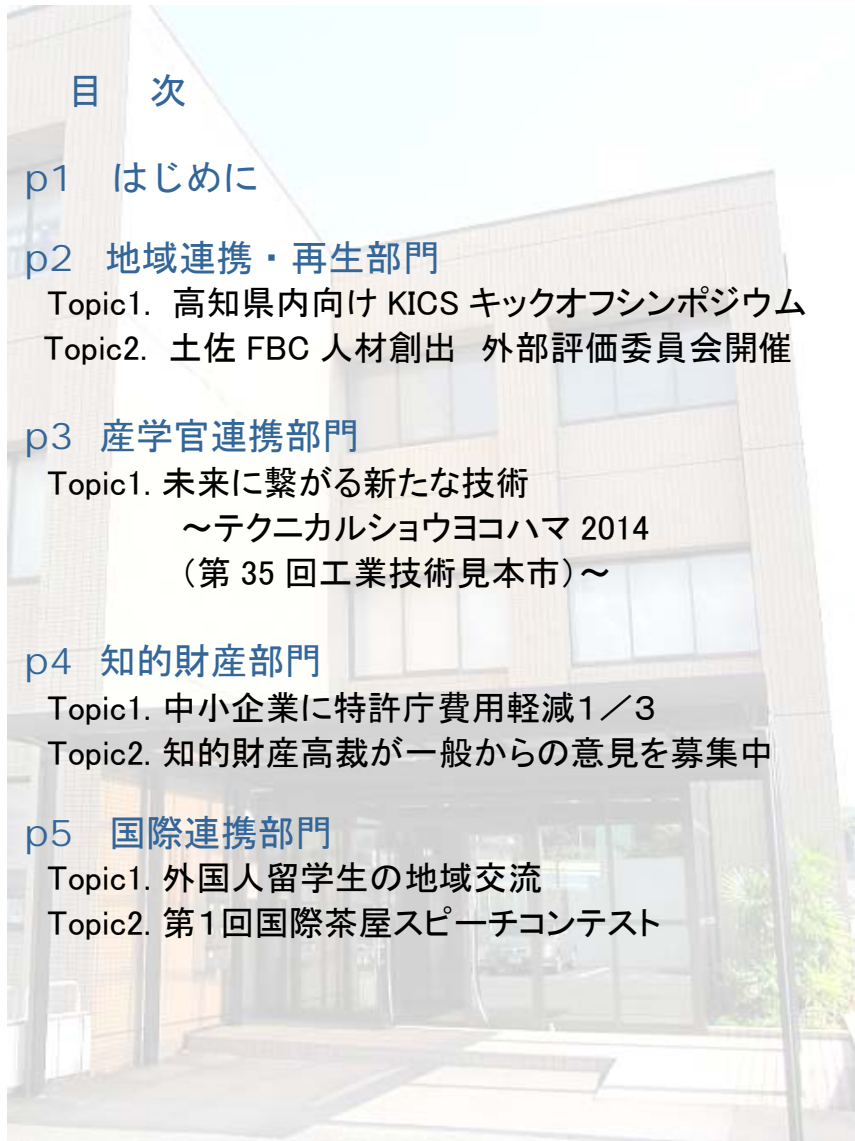
Topic1. 中小企業に特許庁費用軽減1/3

Topic2. 知的財産高裁が一般からの意見を募集中

p5 国際連携部門

Topic1. 外国人留学生の地域交流

Topic2. 第1回国際茶屋スピーチコンテスト



Topic 1. 高知県内向け KICS キックオフシンポジウム

KICS 事業の県内への紹介と、今後の課題と展望を話し合うため、地域振興に取り組む方々を主な対象としたキックオフシンポジウムを開催しました。

日時:平成26年2月17日(月)13:00～16:30

場所:高知会館(高知県高知市本町 5-6-42)2階「白鳳」

プログラム

基調報告:受田浩之氏(高知大学副学長、国際・地域連携センター長)

『「高知大学インサイド・コミュニティ・システム(KICS)」について』

話題提供:上田健作氏(高知大学地域協働教育学部部門教授)

中澤一真氏(高知県産業振興推進部長)

渡邊基文氏

(株式会社シティーネット代表取締役社長、土佐経済同友会産官学民連携委員会委員長)

光明院修一氏(香南市企画課長)

主に県内から100名近い参加者が集まり、高知大学の KICS 事業についてパネリストおよび会場参加者との意見交換を行いました。最後に、高知大学と地域とのネットワークを構築し、協働していくことを目指し、「地域協働ネットワーク会議」を設置することを提案し、会場からのご賛同を頂きました。今後、県全体の「地域協働ネットワーク会議」を年1回開催、また、県内各地域にて「地域再生研究会」を発足し、地域ごとに域学協働事業を地域の皆様と協議し、以て地域再生への貢献を果たしていきます。



Topic 2. 土佐 FBC 人材創出 外部評価委員会開催



食品産業中核人材育成事業である土佐フードビジネスクリエーター(FBC)人材創出は、平成25年度から高知県をはじめとした地域からの寄附講座として実施しております。地域からのご寄附により運営が維持できていることから、地域からその活動を評価頂く必要があり、そのために土佐 FBC 外部評価委員会を2月7日に実施しました。

評価委員長:独立行政法人科学技術振興機構 シニアアドバイザー 細川隆弘 先生

評価委員:公益財団法人高知県産業振興センター 理事長 大利賀臣 様

評価委員:高知商工会議所 専務理事 高橋淳一 様

評価委員:香南市議会 議員 矢野佳仁 様

評価結果は、後日、土佐 FBC ホームページ等により公開する予定としております。

Topic 1. 未来に繋がる新たな技術

～テクニカルショウヨコハマ 2014 (第 35 回工業技術見本市)～

「未来につながる 新たな技術」をテーマに、「ビジネスソリューション」、「生産(加工技術)」、「生産(機器・装置・製品)」、「環境・エネルギー／福祉」、「産学公・企業間ネットワーク」の 5 つの分野を設け、技術革新、商品開発に積極的に取り組んでいる皆さまに、独創性・先進性に富んだ最新の技術・製品や研究成果などを発信するための技術展示会、「テクニカルショウヨコハマ 2014」が開催されました。

本学からは、柳澤和道教授(複合領域科学部門)「廃ガラスを水熱処理することによるリサイクル方法」、平岡雅規准教授(黒潮圏科学部門)「海藻の高効率生産技術」についてポスター・実物展示を行い、共同研究等、連携研究できる企業とのコーディネートを行いました。

日程:平成 26 年 2 月 5 日(水)～7 日(金)

会場:パシフィコ横浜展示ホール

入場者数:約 3 万人

また、2 月 5 日(水)には「横浜全国産学広域連携推進会議」も開催され、全国の産学連携活動を行っている方々と交流を図ることができました。



第 18 回「震災対策技術展」横浜 — 自然災害対策技術展 —

テクニカルショウヨコハマ 2014 と同会場にて 2 月 6 日(木)・7 日(金)の 2 日間、最新の震災対策技術を発信する専門技術展が開催されました。

高知県産学官連携産業創出研究推進事業として、本学と高知県及び(株)技研製作所が連携して取り組んでいる「南海地震による津波被害軽減と浸水継続時間を短縮する対策技術の開発」について、高知県ブース内に(株)技研製作所として小間を構え、事業化・製品化研究の紹介を行いました。今後の事業成果が期待される展示内容でした。



Topic 1. 中小企業に特許庁費用軽減1／3

昨秋の臨時国会で成立した産業競争力強化法で定められた、「特許料等の軽減措置」の詳細が決定、発表されました。

中小・ベンチャー企業や小規模企業等が国内出願を行う場合の「審査請求料」と「特許料」について、平均的な内容の出願で、約 38 万円が約 13 万円に軽減されます。また、国際出願を行う場合には「調査手数料・送付手数料・予備審査手数料」が約 11 万円から約 3 万 5 千円に軽減されます。

この軽減措置は平成 26 年 4 月以降に審査請求等が行われた場合に適用されます（平成 30 年 3 月までの時限措置）。本措置によって、中小・ベンチャー企業による国内外の特許出願が促進され、イノベーションが推進されることが期待されます。

- ニュースリリース（経済産業省のページ）

<http://www.meti.go.jp/press/2013/01/20140114001/20140114001.html>

- 特許料等の減免制度（特許庁のページ）

<http://www.jpo.go.jp/cgi/link.cgi?url=/tetuzuki/ryoukin/genmensochi.htm>



Topic 2. 知的財産高裁が一般からの意見を募集中

スマートフォンなどに関する特許を巡り、米国アップル日本法人と韓国サムスン電子が争っている訴訟の控訴審で、知的財産高等裁判所が、標準化機関において定められた標準規格に必須となる特許についていわゆるFRAND宣言（(Fair,) Reasonable and Non-Discriminatory な条件で実施許諾を行うとの宣言）がされた場合の当該特許による差止請求権及び損害賠償請求権の行使に何らかの制限があるかについて一般から意見を募っています。（平成 26 年 3 月 24 日まで。日本の裁判所が係争中の民事訴訟の審理で、一般の意見を募集するのは初めてです。）

詳細は、各当事者の代理人の HP を参照してください。



アップル側代理人の伊藤見富法律事務所

<http://www.mofo.jp/topics/press-release/20140123.html>

サムスン側の大野総合法律事務所

<http://www.oslaw.org/>

Topic 1. 外国人留学生の地域交流

1月17日(金)に朝倉ふれあいセンターにおいて高知市老人クラブ連合会主催の地域交流ミニサービスデイが開催されました。本学からはスウェーデンから交換留学で来ている3人の留学生が参加し、老人会の皆さまと交流の場を持ちました。3人の留学生はスウェーデンの国や文化、お料理、言葉等を紹介し、また、ギターの生演奏による歌を披露しました。老人会からは三味線の生演奏が披露されました。そのほかにも輪投げゲーム、よさこいダンス、きよしズンドコ体操など、老人会の皆様とともに参加し、和気あいの雰囲気の中で、交流が行われました。また、お昼は和食弁当とふれあいセンタースタッフの手作りおぜんざいが振るわれ、双方にとって異文化体験づくりの交流会となりました。

また、1月25日(土)に朝倉ふれあいセンターにおいて、朝倉ふれあい広場実行委員会主催の国際C級グルメ大会に、本学の韓国、スウェーデン、中国、フィリピン、モンゴルからの留学生が参加しました。また新納特任教授も腕を振るい、タイサラダ(ヤムウンセン)を作られ、合計6か国の料理の出品となりました。早朝9時からふれあいセンター調理室が熱気に包まれ、野菜を洗ったり、生地をこねたり、また慣れた手つきの包丁さばきもなかなかのもので、様々な言語が飛び交う中、みなさんは料理作りに余念がありませんでした。大会は12時から始まり、地元の方々からもご自慢の家庭料理が出品され、どのお料理も真似したいぐらいに美味しく、会場のみなさんは笑みがこぼれながら、色とりどりのお料理を堪能し、大変有意義な食文化の国際交流の場となりました。実行委員会からよい企画なので、是非来年もやりたいとのコメントがありました。

Topic 2. 第1回国際茶屋スピーチコンテスト

1月15日に高知大学朝倉キャンパス内で、学生サークル「国際茶屋」の企画による第1回スピーチコンテストを開催しました。この企画は、日頃学んでいる外国語を活かして、『自分の伝えたい思い』を発表したいという学生たちの強い思いから始まり、国際連携部門との共催で初めて実施されました。

第1回スピーチコンテストには、計15名の日本人学生と留学生が、それぞれの思いを3分間という短い時間でまとめ、それを外国語で言葉にしました。緊張しながらも堂々と発表することができました。その後、国際連携部門の新納特任教授、エバ助教、人文学部のフーク先生の審査と会場に集まった聴衆者の投票により、審査が行われました。最優秀者には、モンゴルからの留学生で『心痛む環境問題』を発表したシジル・アミンズルさんが選ばれました。

国際連携部門としては、今後もこのような学生の企画を支援し、第2回、第3回とつなげたいと考えております。



ミニサービスデイ



国際C級グルメ大会



審査員による講評



優秀賞に選ばれた留学生